

## 公共サインガイドラインに係る調査集計結果

「平成 24 年 3 月 19 日～平成 24 年 12 月 31 日」に作成した公共サインを対象としたもの。

### 1 公共サインガイドライン策定後に公共サインを作成したか。

作成した . . . 4 件

作成していない . . . 4 件

### 2 どの種類の公共サインをいくつ作成したか。

案内看板 . . . 9 枚

解説看板 . . . 1 枚

誘導看板 . . . 2 枚

位置看板 . . . 3 枚

注意看板 . . . 4 枚

### 3 公共サインを作成する際に、ガイドラインで定める基準色を使用したか。 また、その成果や課題などに関する意見。

使用した . . . 4 件

利用者からの意見は特になかったものであるが、明度差が大きいのでしっかりと周知することができた。

学校案内板として作成したが、自然な色彩で関係者から好評であった。

景観に配慮した案内板になった一方、色彩の制限があり、あまり目立たなくなってしまうとの指摘もあった。

### 4 ガイドライン策定時に、周辺景観に配慮したものでは、注意看板の目的を果たせないことが懸念されていたが、景観に配慮しながらも注意看板を作成するにあたり、何か工夫したことはあるか。

また、その成果や課題などに関する意見。

注意看板は、観光客等に対して分かりづらいものでは意味がない。しかし、目立たせると基準に反してしまうことから看板作成が難しい。

地域住民の要望により、ガイドラインが指定する基準色を使用しないパターンで作成した。「景観に配慮する = 目立たない」という意識が浸透していると感じる。

ガイドラインでは、注意看板は色彩について制限を設けていないが、赤や黄色の中でも景観に配慮するような基準を設け、注意看板としても統一感をだしたらどうか。

## 5 公共サインガイドラインを運用した成果について。

まだ、作成した公共サインが少なく、成果としては具体的に表れていないので、今後も継続的にガイドラインの整備方針に従った物を作成していく必要がある。

学校の案内看板のため、書体や校章の色などは既に決まっており、すべてをガイドライン通りにはならないが、他の部分を遵守したことで自然な色彩であるが目立つものとなった。

現在までのところ、作成例が少ないため、特に挙げられる成果はないが、今後さらに多くの公共サインが作られ、町全体のサインにデザインの統一感が出てくれば、箱根町の公共サインとして定着するのではないかと考える。

## 6 公共サインガイドラインを運用する上での課題について。

色によっては景色に溶け込み、一部目立たないものがある。看板は目立たないと意味がないので、どうすれば公共サインガイドラインを考慮した上で、目立たせることができるのかが課題となると思う。

箱根町が設置する公共サインに、統一性を有することも目的の一つであるので、全庁的にガイドラインの整備方針を運用していき検証していく必要があると感じる。

ガイドラインの認知度を向上させていくことが必要だと思う。

まだ、全庁的にガイドラインの運用が浸透していない。グループウェアで、小さなもの・大きなもの・「この看板を作りました。」と流しても良いと思う。

学校や幼稚園で看板等を作成する場合、原色やパステル調の配色、丸ゴシックや行書体の書体が好まれる傾向がある。まだ制度そのものが職員にも浸透しきれていないと思われるので、看板等を作成する際は注意し、その都度説明してガイドラインに沿ったものを作成することが必要。

## 7 公共サインガイドラインに対する全般的な意見

落ち着いた色が箱根らしくて良いと思う。美しい景観を作っていくには必要なものであり、さらに改善していければと思う。

ガイドラインが策定されてから 1 年も経っておらず、整備方針に沿って作

成されたサインも少ないと思うので、全体的な統一性やそれらを踏まえた「箱根らしさ」を検証するには、時期尚早だと感じる。ガイドラインをもう少し運用してから、再度検証する必要があると思う。

まだ一部に旧来のデザインのサインが残っているので、特に簡易的なものであれば積極的にガイドラインに則したサインに更新していきたい。

新しい制度であり、一度にすべての看板等を交換することもできないので、制度を浸透させるまでには時間がかかると思う。



【写真】



【写真】



【写真】



【写真】



【写真】

既存犬のマナー看板



【写真】

参考犬のマナー看板



【写真】

参考犬のマナー看板



【写真】  
郷土資料館誘導看板(接写)



【写真】郷土資料館誘導看板(遠景)



【写真】郷土資料館誘導看板(遠景)